

【検討事項】
**第5期静岡市水素エネルギー利活用
アクションプランの一部改訂について**

令和8年3月11日（水）
環境局 GX推進課 政策係

6. 第5期静岡市水素利活用促進アクションプランの全体像について

- アクションプランは、第3次静岡市地球温暖化対策実行計画で示したリーディングプロジェクトの各取組の目標と、静岡市の具体的な取組内容、スケジュール、指標を示すものとして作成します。
- これまでの成果や課題を踏まえ、2030年度の目標を設定した上で、2か年の計画期間とします。

グリーン水素の利活用促進

- 本市は、「静岡市水素エネルギー利活用促進ビジョン」に基づき、地域特性を活かし水素を利活用したまちづくり「静岡型水素タウン」の実現に向け取り組んできました。
- 本市域内には、グリーン水素が豊富に賦存しているだけでなく、水素を利活用するための技術開発を進める企業・大学が複数存在しており、利活用促進に向けた基盤が整っています。
- 本計画においても同ビジョンを踏襲し、リーディングプロジェクトとして設定します。
- 港湾部においては、静岡県が策定する清水港カーボンニュートラルポート形成計画を踏まえながら取組を進めます。

目標 水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

- ①市域に賦存する水素を利活用できるモデルの構築
- ②他地域へ水平展開できるビジネスモデルの構築
- ③CO₂フリー水素利活用モデルの構築

以上の視点を踏まえ、静岡市が有するポテンシャルと地域特性を活かした、人が住みたくなるような魅力的な「静岡型水素タウン」を実現する。

静岡型水素タウンを実現するための4つの取組

<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;"> 港湾部 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●グリーン水素供給拠点の整備 ●港湾部の特性を活かした需要の創出 ●周辺地域への水素輸送 	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;"> 都市部 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●水素ステーションで製造した水素利用用途の拡大 ●水素ステーション周辺で水素、電力、ガスなどをIoT技術を活用し最適管理 	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;"> 山間部 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●温泉付随ガス(メタン)と微生物を活用した水素製造 ●自立分散型エネルギー供給システムの確立
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;"> 共通 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●水素利用の促進に向けた情報発信 ●燃料電池を活用した機器の普及拡大 ●新たな技術革新などに伴う水素エネルギー導入可能性の検討 ●各種モビリティへの利用拡大も含めた需要創出 		

【4つの取組の2030年度の目指す姿】

(1) 共通

- 水素の利活用を身近に感じ、水素の社会受容性等が向上している
- 首都圏と中京圏を結ぶ東西エリア全体の普及をけん引する中間地としてのインフラが整備され、必要な需要が創出されている

(2) 港湾部

- CNP形成計画に基づく清水港の水素・燃料アンモニア等の次世代エネルギー拠点を形成するための受入環境の整備が進んでいる

(3) 都市部

- 小規模分散型水素製造・循環システム等の導入により、水素エネルギーの面的整備・利用システムの構築が進んでいる

(4) 山間部

- 市域で研究が進んでいる水素利活用技術を支援することにより、水素市場における競争優位性を持つことができる

【各プロジェクトの目標】

(1) 共通

水素ST3箇所、モビリティの水素需要300 t /年、燃料電池13,500台

(2) 港湾部

清水港周辺における水素サプライチェーン構築
(港湾特有の多様なモビリティに向けた供給体制の整備)

(3) 都市部

水素エネルギーの面的整備・利用システムの構築

(4) 山間部

山間部における自立分散型エネルギー供給システムの確立

【2030年度の目指す姿】

➤ 小規模分散型水素製造・循環システム等の導入により、水素エネルギーの面的整備・利用システムの構築が進んでいる

【目標 (アウトカム)】

項目	2024実績	2026目標	2030目標
水素エネルギーの面的整備・利用システムの構築	—	将来構想の策定	実証実験の実施

【アクションプラン】

取組内容	2025年度	2026年度	2026目標 (アウトプット)
1 小規模分散型水素製造・循環システム等の導入 (1) 導入施設の候補選出	技術革新状況の把握と市域での導入検討		将来構想の策定
2 水素エネルギーの面的整備・利用システムの構築 (1) 先進事例研究	技術革新状況の把握と市域での導入検討		将来構想の策定

【参考： システム構築イメージ図】

